

形成外科 KC 開院 10 年を振り返って ～いばら道は塞翁が馬～

医療法人こころ満足会 形成外科 KC 理事長・院長 新城 憲



20年余の公務員生活の後、2007年6月に那覇市久茂地で開業しました。今回、那覇市医師会から寄稿依頼がありましたので、開業後の10年を振り返る良い機会と捉え、ペンを取ります。

クリニックの正式名称は、医療法人こころ満足会 形成外科KCですが、「KC」の由来は、私の名前Kenの「K」と、クリニックのマネジャーかつヨーガ教師でもある妻のヨーガ名Calmyの「C」を組み合わせたものです。子供二人も親元を離れ、夫婦二人で力を合わせて新しい人生を歩もうとの意味も含めています。

医院を開業した方であれば、誰でも大なり小なり経験するであろう“いばら道”、ここでは私と妻(以下K、Cと略)が遭遇した3つの大きな“いばら道”に絡めて、この10年間について述べたいと思います。

【いばら道Ⅰ：手術がない】

県立病院に勤務していたころKは、日々、手術で多忙だったこともあり、開業しても同じ状態が続くとCは思っていたようです。ところが、現実には甘くない。二人で、市内のクリニックを訪ね、開業の挨拶と広報活動を続けたものの、メスを握る機会が少なく、机の番をすることが多いKでした。その姿を見たCは、何とかKが腕を振るう場所を見つけようと、持ち前の“加速度思考”を発揮し、開

業の1年後に、中東・アラブ首長国連邦のドバイに渡り仕事を探していたのです。なぜドバイなのか、戸惑うKでしたが、紆余曲折を経て、2009年8月に書類審査と面接試験をパスして、2011年9月から当地で定期的に診療を始めて、今日まで継続しています。ドバイ進出をきっかけに、新米クリニック経営者の心境が“ハラハラ・ドキドキ”から“ワクワク・ドキドキ”へ変化し、それとともに経営状態も安定していきました。紙面の関係で詳細は割愛しますが、ご興味のある方は小生のブログ(<http://kcblog.ti-da.net>)をご笑覧ください。

【いばら道Ⅱ：「KC」の「C」が機能しない】

開業前はクリニックのイメージ作り(ロゴ・HP・パンフレット・文書)、融資依頼から内装・家具選定、職員採用、開業後は経理、人事、広報など、獅子奮迅の働きを見せたCですが、持病の腰痛に悩まされていました。当初は椎間板ヘルニアによる痛みとして治療を受けていましたが、2009年に痛みの主な原因が変形性股関節症によるものと診断されました。その後、急速に症状が悪化し、精神的な支えとして開業前から続けていたスポーツジムでのヨーガ・インストラクターも辞めざるを得ませんでした。増悪する痛みのために、寝られない日々が続く、日常生活にも大きな支障を来してきました。そして、いよいよ、「KC」の両輪のひとつ「C」が機能しない状態となり、

《随 筆》

2011年に症状が強い左側の人工股関節全置換に踏み切りました。術後は順調に経過して、術前の痛みが嘘のように消失し、リハビリテーションで入院中から経理書類を管理できるようになりました。しかし、右側も時限爆弾を抱えているような状態のため、用心しながら、KとCでクリニックを牽引しています。

【いばら道Ⅲ：「KC」の居場所がなくなる】

開業後5年目の2012年、青天の霹靂のようにクリニックの移転を余儀なくさせる出来事がありました。その当時、毎日、出勤時に見ていた新タイムスビルの建築現場、まさか、そのビルに移転するとは、夢にも思いませんでした。移転を決意したのが2012年6月で、すでに全体像が見えていた同ビルに入居の交渉を始めました。本来はオフィスビルのため、許可がおりるか確信はありませんでしたが、結果的に、良き出会いに恵まれ、入

居の仮契約後、同年の暮れに内装工事を開始しました。2013年の1月末からの移転に当たっては、医療機器はもちろんのこと、家具や取り外し可能な収納棚をすべて移動する予定でしたので、引っ越しのスケジュール表を綿密に作成し、計画通り10日の休診期間で作業を完了しました。移転後、早4年が経過して、今は毎日の出勤が楽しくなるほど、快適な環境の中で仕事ができています。

人生、何が災いし、何が功を奏するのか、分かりません。まさに、“いばら道”が、“人生万事塞翁が馬”を実感させてくれました。多くの出会い、多くの伏線が、今、ひとつに繋がりと、将来に大きく広がりつつあります。

開院10周年を迎えるにあたり、会員の皆様から得たご指導、ご協力に深く感謝しつつ、今後も病診・診診連携を大切にして、患者と職員がともに「こころ満足」なクリニックを目指したいと考えています。



形成外科 KC（利便性の良いタイムスビル 6F にあります。）